

第三十四師團

師團長 陸軍中將 伴 健雄

一 行動概要

昭18/18—19/10間常德殲滅作戦参加尔後江西省南昌附近
警備 194月下旬其の警備を独立歩兵九七旅団に引継ぎ湘
桂作戦参加の爲南昌出發

南昌—安義—新市東方地区を西南進 六月十八日岳巖山を攻畧
醴陵(19/7下旬)—萍鄉を至て南進第三師團に続行して軍の左
縦隊となり東方よりの執拗なる敵の攻撃を撃破しつ、茶陵
—安仁—耒陽地区に進出 軍本隊(主力)の衡陽攻畧を以て谷易な
らしめ、次いで十月上旬常寧—全縣を至て全縣附近に進出
19/10下旬—20/5/14 歩兵九三六連隊 20/1/1—20/4/9 歩兵九三七連
隊を以て全縣周辺地区及び歩兵九三二八連隊を以て19/12—20/3/間
柳州附近の警備を担任せしめ、20/3/3—4月の頃歩兵九三八連隊の
全縣附近移駐を待って師團主力を該地区周辺に集結

昭20 下旬以降オ三平軍の實施せる湘西作戰に協力全果一
新寧一武岡方面に進出したが軍命令により反転他戦域へ
転用の爲六月十日より安義に向ふ敵中突破作戰を實施し
宝慶一易俗河一瀏陽一萬載一上高一八月下旬安義に進出
八月十九日九江到着 一部水路 主力揚子江北岸を浦口に向
ひ前進した

二 野戦病院の状況 (長軍医少佐 番場新一)

編成

本部一 第一半部
第二半部

収容隊 (第一オ五収容隊)

行動 (オ三平野団野戦病院後行動要図参照)

南昌 昭19 4 29 出發

大治 19 5 下旬 (約十日間) 患療開設 行軍間駐留間の患者

約一八〇名収容 石灰窯陸病及列車により九江へ後送

羊樓洞 武昌を至て羊樓洞に野病開設 糧秣補給並に附近警

備任務中の兵団關係連者を収容 咸寧へ列車後送

遠磨山(196/1/620)歩二七連配属の第二半部が捷進野病

開設戦傷約六〇名收容 仰天坡速集、前送

仰天坡 长沙下流十二軒湘江左岸地区速集開設(196/2/1/1970)

岳麓山攻畧の爲部隊が湘江渡河後發生の患者約六〇

を收容船舶により湘江を下航岳州第一七兵站病院へ

後送した

湖南大學 长沙対岸岳麓山南麓位置の同地に第二半部を以て

戦病院を開設(196/2/1/1970) 岳麓山攻畧部隊の患者

を收容 长沙野戦予備病院第一班へ後送

醴陵 本隊と第二半部が合流し醴陵へ入ったのは七月下旬で当地

に約三十日間患者集合所を開設通過部隊又師団の患者

及病兵を收容した 患者は株州方面へ後送り本隊は八

月上旬出發

萍 郷 三十四日滞在師団の病兵は醴陵に残置された

蓮

茶

安

花 1980 前後 進出師団主力と合流約五日間患療開設此

の地に於て衡陽陥落を聞く 附近敵情悪化し行軍中

敵と遭遇交戦した が歩三七連隊又山砲隊が是を棄退す

陵 1980 頃到着 茶陵へ入る手前で歩三七連隊が二大隊

は頑強に抵抗する敵と交戦相苦戦した 五日間患療開設

行軍中の戦傷患者 千名未癒マラリヤ患者等を收容

前送した 森川收容隊の患者約三名を船舶輸送隊

へ申送り 洙水を下航 衡山方面へ後送された模様なり

詳細不明である

仁 八月九日頃通過 洙水支流を渡河後約五日間患療開設

約四〇〇名收容 安仁北方約二里の地点で歩三七連隊の

一部は有力な敵と交戦約一週間にして是を棄退した

が一中隊は全滅的打撃を受け死体收容不能のもの若

干を生じた 隊名は部隊で掌握してゐたが其の処理は

清んでゐる筈 竜王廟附近に開設中の第三師団野戦病

院は前進準備中其の患者約二〇〇名を申送り 耒陽方面へ前

来

送した自己部隊の前送患者もあり引継ぎに相当の混乱
を呈した

陽域外西北方郊外の民家に病院開設(1942-1943)

醴陵出發以來前送患者は担送一五〇護送二〇〇独歩三五〇
計七〇〇で患者は輕装せしめて二列縱隊看護兵を附し
夜行軍を続けたが掌握は完全として死亡七名を出した
外事故はなかつた

死亡者は其の指と切つて来陽到着後茶毘に付し尔後処
理は完全である

是等前送患者の外来陽附近に約一三〇〇の患者滞留しあり
計二〇〇〇を収容した、当時来陽周辺には軍の衛生機関
等開設なく全部野戰病院に收容の止むない状況で3D
患者の引継ぎと共に相当の混乱を来し患者の掌握は必
しも完全とは言へ得なかつた、剩、戦争栄養失調症赤
痢等傳染病に基く死亡者続發し他部隊患者中氏名

不詳のものもあった

患者は五〇〇名位宛四回、引継患者(三回)を先上衡陽方面へ担送又は馬送し同地周回トコレヲ蔓延の時期は自隊の患者収容班により衡山方面へ直送した往復四日を要したが途中の事故はなかつた模様である

石塘鋪

歩兵才三八連隊は本作戦間師団主力と別行動をとり八月中旬末陽附近へ到着連隊の患者収容班が開設せられて居た

患者給養は一日粥食二回程度で粗悪であり患者等で糞尿徴發下出たまゝ生死不明となつたものもある

(歩三七連の補充員四名生死不明となる)

約一ヶ月遅水て才三七師団が後続進出してゐるが患者で27Dへ申送つたものは余り多くない筈

野戦療養病院(19124104) 未陽に開設

才三十三班 当院の引継ぎ収容患者の大部分は27D関係者で安仁茶陵附近には当時未だ同兵団野戦病院の一部が開設されてゐた

常

全 零

寧 (1910.2.10 頃 遠野 戦病院 開設)

1912月頃の收容一〇〇〇—一、三〇〇に及び後送意の如くな
らざりし上に一死者多数に昇つた、
二回程軽便鉄道により其の他は自動車により衡陽方面
へ後送せられた。空襲に對する顧慮から専ら夜間実施
せられたが途中事故はなかつた称である

一死者の大部はアメリカ赤痢及戦傷栄養失調患者である

常寧作戦間の患者約一八〇名(戦傷患者殆んどなく)を收容

二回トヨリ湘江渡河点紅泥橋附近に前送後船舶により

湘江を下航衡陽方面へ後送した

收容隊長山本正夫少尉是が輸送に任じたが任務終了

部隊に追及すは相当の期間を要した

陵 1910.20頃患者療養所開設

縣 (1910.13—1910.20) 全県東南方二十軒清江橋に患者療養所開設

当房村ト (1910.30—20.4.1) 野戦病院開設主として附近警

備中の34及通過部隊患者を收容し全縣一八一矣
若病陵、後送した

新 寧 尔後敵中突破作戦

望 慶 ↓ 湘潭 ↓ 易俗河 ↓ 安義 に向ふ

参考資料

1. 全県より文料程離れた昇首街へ野病關係者が分遣された際

2034頃市街より四里程離れた部落で34の突四名(上等兵二、一等兵二)

民家に就寢中土匪に襲撃されたもの、如く殺害されて居るのを發

見速刻部隊へ連絡したが処理結果は不明である

2. 部隊追及者

(1) 民家に宿営し部隊へ追及しようとする自由行動をとつてみるもの
があった

(2) 34は作戦期間を通じて大江及武昌に梱包監視隊を設置し補充

中弱兵は一應武昌に残置し回復後部隊へ追及させた

(3) 補充員中には指揮官の指揮に従はず自由行動をとるものがある

(一) 美陽で受領した補充員は名簿上二七〇名位であったが實際部隊へ追及したものは約其の半数位であった

(二) 漢口日本人租界が1944大爆撃を受け全滅した際整理に行った兵の目撃談によれば日本兵の死体が相当数あったが是等は退役患者等で兵站へ運送せず易くなった邦人兵へ崩泊中遺棄したものと判断される

(三) 殲滅戦高陵関係書類特ト死七者関係書類は全縣附近整頓期間に整理したが終戦後九江附近で焼却した

死七判明(五名)

綴	本籍	地	官等	氏名	資料
216c			歩一	板谷義次郎	所属不明として掌握 1945年湖北省荊門 西南方六村附近の 激戦に於て戦死 783江西南昌東郷果 白竹橋附近に於て夜 行軍中に不明認定
216c			現歩長	久保大助	

3 現役処理(三名)

2 飯還判明(三名)

2186	司	7 Kibs	TL	2186	FL	TL
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
歩一	歩一	任長	予通尉	歩二	現衛二	通一
高橋岩太郎	関口政雄	南貞次郎	満田一	平田元榮	佐藤弘	本善逸
20/4/26 长沙北分三十軒 附近下着て高橋岩太郎 亡	未到着補充員(✓) 23/4/28 スベックノ健 24/7/18 復員	20/7/1 本土要備要 員として出資 20/10/15 復員	17/5/18 当陽野隊隊分 遣申所在不明 25/1/28 復員	尚守名簿に記載なし 尚名簿あり 遺骨あり	19/3 牡丹江より通信あり 月日不明 衛隊一三八突 隊病後入院 戦病死	19/9/15 衛隊通の后下前 甚しく半白土時頃 突 隊散分后 敵毒を聞く 土民の言綜合 戦死決定

4 認定豫定(四〇名)

217c	"	"	"	"	"	"	"	"	216c	部隊
矢倉喜一	寺澤義規	田中宣幸	扇浦幸三	島田博	松村富樹	鳥海光雄	綿谷義雄	戸口圭治	泉谷三郎	氏名
"	"	"	"	"	"	"	"	"	大段	府縣部隊
丁	"	"	"	"	218c	217c	FL	TL	218c	部隊
上野肇	安宅良吉	楠見隆夫	石橋成亮	東前博	山本善弘	阪本寅三	津田行雄	東城佐市	山見三次郎	氏名
"	"	"	"	"	"	蠶	"	"	大段	府縣部隊
218c	下	FL	P	217c	丁	FL	"	"	217c	部隊
岡村正毅	森義衛	橋本邦人	飯田忠	菊地一雄	三浦宗正	山口孝一	柏原榮吉	大西利勝	杉本敏雄	氏名
山口	峯	山形	福島	宮城	"	青森	"	"	奈良	府縣

218c

予歩止内山船石

20年18湖南省新寧
に於て逃亡

5. 歩三八連西村政一(和歌山)は1912南京一五六兵站病院退院後不明の処
 調査の結果 20221急性腸炎の爲 九江一七七兵站病院へ再入院
 2047南京一五六兵站病院へ後送転入 20513天津へ転送 20516
 北京一五三兵站病院へ三介院へ転入 20714満州奉天へ後送され
 た事実が判明した

218i	"	"	217i
平田義雄	中原如	岡本武雄	田中源三郎
"	"	"	大塚
217i	216i	9644	TL
中川吉次	宮崎章	茶畑利平	武友秀数
"	章	"	齋
		TL	217i
		小笠原由太郎	西
		青森	重荷
			徳島